

2024年12月18日

2024年度SCAT表彰[※]の決定について

(一財)テレコム先端技術研究支援センター(SCAT、会長:吉田 進、所在地:東京都新宿区)では、情報通信技術の研究開発により国民生活の安全安心に寄与するなど多大な貢献のあった研究者を表彰しています。

このたび、2024年度の受賞者(会長大賞1件、会長賞2件、優秀賞2件)を下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 会長大賞 (1件)

「マルチメディアセキュリティ分野における先駆的研究と社会課題の解決」

越前 功 (国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹・教授)

2. 会長賞 (2件)

「重要インフラ及び Society 5.0 向け構成・状態分析技術によるサイバーセキュリティへの貢献」

中嶋 良彰 (日本電信電話(株) サービスイノベーション総合研究所

社会情報研究所 所長)

佐藤 亮太 (日本電信電話(株) サービスイノベーション総合研究所

社会情報研究所 主幹研究員)

「Privacy Policy/Preference Manager の研究開発」

奥井 宣広 ((株)KDDI 総合研究所 セキュリティ部門

サイバーセキュリティグループ コアリサーチャー)

披田野 清良 ((株)KDDI 総合研究所 セキュリティ部門 エキスパート)

清本 晋作 ((株)KDDI 総合研究所 執行役員 セキュリティ部門長)

3. 優秀賞 (2件)

「スマートフォンログを活用した多様な健康状態推定 AI の開発と HealthTech 基盤を通じた社会実装」

檜山 聡 ((株)NTT ドコモ クロステック開発部 医療・ヘルスケア技術開発担当 担当部長)

河田 隆弘 ((株)NTT ドコモ クロステック開発部 医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長)

山内 隆史 ((株)NTT ドコモ クロステック開発部 医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長)

「低環境負荷な印刷法による有機 EL デバイスの研究開発」

大久 哲 (日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部 業務職)

※ SCAT表彰は、情報通信技術の研究開発により国民生活の安全安心に寄与するなど多大な貢献のあった研究者に授与するもので、2019年度から公募・他薦により実施しています。

2024年度の受賞者の業績、プロフィールは別紙のとおりです。

連絡先

(一財)テレコム先端技術研究支援センター 浅原

TEL: 03-3351-8151 FAX: 03-3351-1624

電子メール: scat-awards[at]scat.or.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「[at]」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。

受賞者紹介

◇会長大賞

「マルチメディアセキュリティ分野における先駆的研究と社会課題の解決」

越前 功（国立情報学研究所）

業績：

マルチメディアと情報セキュリティ・プライバシー保護の融合分野における研究が重要となっている。受賞者は、この分野において 70 編以上の学術論文と 200 編以上の国際会議論文を発表するとともに、日米欧等で 60 件以上の特許を登録する等の顕著な学術成果を残した。また、研究成果を通じた社会問題の解決に取り組み、カメラの写り込みによるプライバシー侵害を防止する PrivacyVisor や遠隔からの指紋の盗撮を防止する BiometricJammer 等の独創的な研究開発を行い、国内外のメディア等で大きな反響を巻き起こした。さらに、AI によるフェイク顔映像の検出手法や、検出と改ざん領域の推定を同時に行う手法を世界で初めて提案する等、Deepfake detection と呼ばれるフェイク顔映像の検出という新たな分野を創成した。また、JST CREST FakeMedia や国立情報学研究所シンセティックメディア国際研究センター等の活動を通じて、フェイク顔映像の自動検出を行う SYNTHETIQ VISION の開発及び国内企業への有償ライセンスを行い、著名人の Deepfake 検出サービスに SYNTHETIQ VISION を採用する等の研究成果の実用化を実現した。

越前 功（えちぜん いさお）

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹・教授
〈プロフィール〉

1995年 東京工業大学 理学部 応用物理学卒業

1997年 東京工業大学大学院 理工学研究科 修士課程修了
日立製作所 システム開発研究所 入社

2003年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 博士（工学）

2007年 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授

2014年 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授

2017年 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 教授（現在に至る）
電子情報通信学会 フェロー

2019年 東京大学大学院 情報理工学系研究科 電子情報学専攻 教授（併任）
発明協会 関東地方発明表彰 発明奨励賞

2020年 IFIP TC 11 (Security and Privacy Protection in Information Processing Systems) 日本代表、JST CREST インフォデミックを克服するソーシャル情報基盤技術 (CREST FakeMedia) 研究代表者

2021年 国立情報学研究所 シンセティックメディア国際研究センター センター長
国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹（現在に至る）

2023年 第38回電気通信普及財団賞(テレコム学際研究賞)特例表彰、映像情報メディア学会
ベストアティクル賞、電子情報通信学会 論文賞、BTAS/IJCB 5-Year
Highest Impact Award (promoted by the IEEE Biometrics Council)

2024年 情報処理学会 フェロー



◇会長賞

「重要インフラ及び Society 5.0 向け構成・状態分析技術による

サイバーセキュリティへの貢献」

中嶋 良彰、佐藤 亮太（日本電信電話株式会社）

業績：

サイバー攻撃は重要インフラシステム等を脅かす社会問題となっている。受賞者は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する「戦略的イノベーション創造プログラム(以下、SIP)」において重要インフラ等を対象とするサイバーセキュリティ対策技術(真贋判定技術、動作監視・解析技術)の大規模研究開発プロジェクトを統括して国産サイバーセキュリティ技術を創出するとともに、本成果の導入によって東京2020大会における約4.5億回のサイバー攻撃への対応に貢献した。さらに、第2期SIPにおいても、本技術を発展させ OT(Operational Technology)/IoT システムに適用する研究開発プロジェクトを企画・遂行し、Society 5.0 に不可欠な OT/IoT 向け国産セキュリティ技術の創出に貢献した。これらの成果は、保護対象の「構成(ソフトウェアやファイル等)・状態(通信データ等)」を分析・可視化する基盤技術として、スマートビル・スマートファクトリ分野等で社会実装が進められている。また、当該技術が生成する可視化データの一部は各国が標準仕様として採用を進めている SBOM (Software Bill of Materials) に準拠しており、受賞者は技術の高度化と並行して、可視化データの活用推進によってサプライチェーンセキュリティリスクの低減等に取り組む「セキュリティ・トランスペアレンシー・コンソーシアム」を設立(2023年9月)し、その幹事会員事業者として運営の中核を担っている。

中嶋 良彰 (なかじま よしあき)

日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所
社会情報研究所 所長
(プロフィール)

1997年 東京工業大学大学院 情報理工学研究科
数理・計算科学専攻 修士課程修了

日本電信電話株式会社 入社 情報通信研究所 配属

1999年 日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所

2005年 日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所 研究主任

2008年 日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所 主任研究員

2009年 内閣官房 情報セキュリティセンター (NISC) 参事官補佐

2011年 日本電信電話株式会社 技術企画部門 担当課長

2013年 日本電信電話株式会社 セキュアプラットフォーム研究所 主幹研究員

2020年 日本電信電話株式会社 セキュアプラットフォーム研究所 主席研究員

2021年 日本電信電話株式会社 社会情報研究所 主席研究員

2023年 セキュリティ・トランスペアレンシー・コンソーシアム 可視化データ活用 WG 主査

2024年 現職

セキュリティ・トランスペアレンシー・コンソーシアム 運営委員長



佐藤 亮太 (さとう りょうた)

日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所
社会情報研究所 主幹研究員

〈プロフィール〉

2004年 大阪大学大学院 修士課程修了

日本電信電話株式会社 入社

情報流通プラットフォーム研究所 配属

2007年 NTT レゾナント株式会社 コミュニケーション事業本部

2009年 NTT コミュニケーションズ株式会社

ビジネスネットワークサービス事業部

2010年 日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所

2011年 日本電信電話株式会社 セキュアプラットフォーム研究所 研究主任

FIT2021 第10回情報科学技術フォーラム 論文賞

2013年 日本電信電話株式会社 技術企画部門 主査

内閣官房 情報セキュリティセンター (NISC) 参事官補佐

2015年 内閣官房 情報セキュリティセンター (NISC) /

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室 (併任) 参事官補佐

日本電信電話株式会社 技術企画部門 担当課長

2017年 日本電信電話株式会社 セキュアプラットフォーム研究所 主任研究員

2020年 日本電信電話株式会社 社会情報研究所 主任研究員

2023年 現職

セキュリティ・トランスペアレンシー・コンソーシアム 可視化データ活用 WG 副主査



◇会長賞

「Privacy Policy/Preference Manager の研究開発」

奥井 宣広、披田野 清良、清本 晋作

(株式会社 KDDI 総合研究所)

業績:

スマートフォンや IoT 等の機器等から収集されるデータには多くのパーソナルデータが含まれており、適切な管理や活用が社会課題となっている。受賞者は、個人情報保護法改正や欧州 GDPR 施行以前からパーソナルデータの取り扱いの危険性にいち早く着目し、研究開発を進めてきた。その成果として、ユーザ中心の思想に基づいてパーソナルデータの提供に関する設定情報を管理し、ユーザがパーソナルデータの提供を適切にコントロールするのを支援する機能を初めて実現した Privacy Policy/Preference Manager(PPM)を開発した。PPMは提供する複数のサービスのプライバシーポリシーに対するユーザの同意状況の一元的な管理を可能とすることで、ユーザの同意に基づいたパーソナルデータの適切な利活用を実現した。また、PPM は研究開発や標準化、オープンソース化等の活動に加えて、KDDI 株式会社提供する「au ID ポータル」のプライバシー設定機能及び関連システムとして実運用されており、ユーザの au ID に紐づく各種情報の利用に関して、個別に同意した内容の確認及び変更を可能にした。さらに、PPM は同意管理機能サービスとして事業者向けにも提供されており、複数の事業者でパーソナルデータの管理を適切に行うために活用されている。このように受賞者が研究開発した PPM は、ユーザが安全・安心にサービスを利用できるとともに、事業者においても安全・安心にパーソナルデータを利活用する環境を構築した。

奥井 宣広 (おくい のりひろ)

株式会社 KDDI 総合研究所 セキュリティ部門
サイバーセキュリティグループ コアリサーチャー
(プロフィール)

2010年 早稲田大学 理工学部
コンピュータ・ネットワーク工学科卒業
2012年 早稲田大学理工学術院 基幹理工学研究所
情報理工学専攻 修士課程修了
KDDI 株式会社 入社
2013年 株式会社 KDDI 研究所 配属
2019年 現職
2020年 情報通信技術委員会 功労賞、通信文化協会 前島密賞
2022年 電子情報通信学会 基礎・境界ソサエティ 貢献賞



披田野 清良 (ひだの せいら)

株式会社 KDDI 総合研究所 セキュリティ部門 エキスパート
(プロフィール)

- 2007年 早稲田大学 理工学部
コンピュータ・ネットワーク工学科卒業
- 2010年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)
- 2011年 早稲田大学理工学術院 基幹理工学部 助手
FIT2011 ヤングリサーチャー賞
- 2012年 早稲田大学理工学術院 基幹理工学研究科
情報理工学専攻 博士後期課程修了 博士 (工学)
- 2013年 KDDI 株式会社 入社
- 2014年 株式会社 KDDI 研究所 配属
- 2017年 EUCNC2017 Best Booth Award
- 2020年 通信文化協会 前島密賞
- 2023年 現職
電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術賞 (奨励賞)



清本 晋作 (きよもと しんさく)

株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員 セキュリティ部門長
(プロフィール)

- 1998年 筑波大学 基礎工学類 物理工学専攻卒業
- 2000年 筑波大学大学院 工学研究科 物理工学専攻 修士課程修了
KDD 株式会社 入社、株式会社 KDD 研究所 配属
- 2006年 九州大学大学院 システム情報科学府
情報工学専攻 博士課程修了 博士 (情報工学)
- 2012年 先端技術大賞 経済産業大臣賞
- 2013年 全国発明表彰 発明賞
- 2014年 株式会社 KDDI 研究所 情報セキュリティグループ グループリーダー
文部科学大臣表彰 科学技術賞、通信文化協会 前島密賞
- 2016年 電子情報通信学会 業績賞
- 2020年 テレコム先端技術研究支援センター SCAT 表彰 会長賞
通信文化協会 前島密賞
- 2021年 現職
- 2022年 情報規格調査会 国際規格開発賞
- 2023年 電子情報通信学会 フェロー称号



◇優秀賞

「スマートフォンログを活用した多様な健康状態推定 AI の開発と
HealthTech 基盤を通じた社会実装」

檜山 聡、河田 隆弘、山内 隆史

(株式会社 NTT ドコモ)

業績:

健康寿命の延伸、医療費・介護費低減等の観点から、国民一人一人が自身の健康状態を把握し、主体的に健康行動に取り組むことが重要となっている。受賞者は、「日常生活を通して誰もが健康を維持・増進できる安全・安心な社会」の実現をめざし、世代を問わず広く国民に普及したスマートフォンから自動的かつ非侵襲的に取得できるログを活用することで、様々な健康状態を推定し、健康行動につなげる技術を開発した。例えば、フレイル推定 AI は身体機能や認知機能の低下がみられるフレイルをいち早く検知し、個人ごとに異なる生活習慣の改善アプローチを提示することができる。その他、ストレス推定 AI や血圧上昇習慣推定 AI、免疫力推定 AI、脳の健康チェック AI など、国民の健康の維持・増進につなげる多様な健康状態推定 AI を開発した。さらに、これらの AI を集約・搭載した HealthTech 基盤を開発し、商用でのサービス提供を開始している。NTT ドコモでの事業利用に留めることなく、あらゆる産業界向けに機能提供することで、社会全体での予防・健康づくりに向けて多大な貢献をした。

檜山 聡 (ひやま さとし)

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部
医療・ヘルスケア技術開発担当 担当部長
ヘルスケアサービス部 担当部長兼務
(プロフィール)

2000年 慶應義塾大学 理工学研究科 電気工学専攻 修士課程修了
株式会社 NTT ドコモ 入社 ネットワーク研究所 配属

2007年 株式会社 NTT ドコモ 総合研究所 研究主任

2010年 東京大学大学院 広域科学専攻
生命環境科学系 博士課程修了 博士(学術)

International Symposium on Molecular Nanotechnology 2010
Best Poster Award、International Conference on Quantum,
Nano and Micro Technologies 2010 Best Paper Award

2011年 株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所 主任研究員

2016年 株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所 主幹研究員

2020年 現職

2023年 Well-being & Age-tech Award 2023 優秀賞

情報処理学会 DICOMO 2023 優秀論文賞・優秀プレゼンテーション賞



河田 隆弘 (かわだ たかひろ)

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部

医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長

〈プロフィール〉

2005年 千葉大学 工学部3年次退学 (大学院飛び入学)

2007年 千葉大学大学院 自然科学研究科 修士課程修了

株式会社 NTT ドコモ 入社 ネットワーク開発部 配属

2014年 株式会社 NTT ドコモ サービスデザイン部 主査

2017年 日本デザイン振興会 グッドデザイン・ベスト 100

2018年 株式会社 NTT ドコモ R&D 戦略部 主査

2020年 株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部 担当課長

2021年 NTT ライフサイエンス株式会社 ビジネスアライアンス部 担当課長

2022年 日本電信電話株式会社 研究開発マーケティング本部 担当課長

2023年 現職



山内 隆史 (やまうち たかふみ)

株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部

医療・ヘルスケア技術開発担当 担当課長

ヘルスケアサービス部 担当課長兼務

〈プロフィール〉

2011年 京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻

修士課程修了

株式会社 NTT ドコモ 入社 先進技術研究所 配属

2015年 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 特任助教

2019年 株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所 研究主任

2020年 株式会社 NTT ドコモ クロステック開発部 主査

2022年 現職

2023年 Well-being & Age-tech Award 2023 優秀賞



◇優秀賞

「低環境負荷な印刷法による有機 EL デバイスの研究開発」

大久 哲（日本放送協会）

業績：

センシングや発電、通信、データ表示等を行う IoT デバイスは、地球温暖化の原因となる CO₂ 排出量削減のために製造及び使用時の両面から消費エネルギー削減が要求されるとともに、様々な場所での使用や用途から薄型・小型フレキシブル・伸縮可能等も求められている。受賞者は、低環境負荷な印刷法を用いた有機 EL デバイスの研究開発に 15 年以上従事し、地球温暖化対策として CO₂ 削減を目指した製造エネルギーの削減とデバイス性能の向上に貢献してきた。低電圧・高発光効率を備えるデバイスの実現により、IoT デバイスの薄型化・小型化・伸縮可能性を実現し、多様な応用を可能としている。また、デバイス製造における新たな短絡防止技術を開発し、安価なアルミ箔を基板材料として活用することに成功した。これにより、従来はコストや環境負荷が高かった製造プロセスを簡便かつ省エネルギーで行うことが可能となった。さらに、受賞者は人体に貼り付け可能な伸縮可能な有機 EL デバイスの発光効率を従来の数倍に向上させる電子注入層材料の開発に成功した。併せて、印刷方式と蒸着方式の有機 EL デバイスの界面構造の違いを解析し、性能向上への道筋を提示するなど、IoT デバイス全般への応用に役立つ知見を提供した。

大久 哲（おおひさ さとる）

日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部 業務職
〈プロフィール〉

2006年 東京工業大学 理学部 化学科卒業

2008年 東京工業大学大学院 理工学研究科 化学専攻修士課程修了
コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社 入社

2012年 山形大学 プロジェクト研究員

2015年 山形大学大学院 理工学研究科
有機材料工学専攻 博士後期課程修了 博士（工学）

山形大学 特任助教

戦略的イノベーション創出推進プログラム

「印刷で製造するフレキシブル有機 EL 照明の開発」 サブリーダー

2020年 現職

山形大学 客員准教授

2021年 照明学会 光源・照明システム分科会 幹事

2024年 映像情報メディア学会誌 編集委員会 海外文献部門委員会 副委員長

